神奈鍼会報

第 162 号

平成 30 年 12 月 27 日発行

発行人　一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会　会長　伊勢山 竹 雄　編集者　太 田 修 二

〒231-0065 神奈川県横浜市中区宮川町 2-55　ルリエ横浜宮川町 304

TEL.045-242-7790　FAX.045-242-7791　E-mail：kanasin@apricot.ocn.ne.jp

スポーツ&災害支援 フィールド活動特集

横浜国際マラソン 2018
ケアコンディショニングブース

昨年は台風の影響で中止になった横浜マラソン2018が10月28日（日）パシフィコ横浜をメイン会場で実施され、27,824人が参加しました。ケアコンディショニングブースは、パシフィコ横浜内に設置され、全国で初めて、（一社）神奈川県鍼灸マッサージ師会47名（他師会９名）、（公社）神奈川県鍼灸師会14名、（一社）日本あん摩マッサージ指圧師会９名、（一社）神奈川県指圧師会４名の鍼灸マッサージ業団に加へ、（公社）神奈川県柔道整復師会、スパイラル・テーピング協会（柔道整復師）、日本アロマセラピー学会（医師、看護師など）による、有資格者のみで構成されたものになりました。

鍼灸マッサージ業団としては、ベッド30台で施術者74名、パイオネックス施術202名、はりマッサージ施術496名の選手の施術を行いました。また神奈川衛生学園の学生８名、全鍼事務１名の協力を得ることができました。

アロマチームは、香りでリラックスを図るという手法を用いたり、スパイラルテープやパイオネックスを貼ったりと多方面でのアプローチに、多数の選手が利用し大好評でした。

大会主催者からもこのような多職種で有資格者のみでの対応に、今後も期待できる方法として、協力を惜しまない様子でした。全国に神奈川モデルとして広がることを期待したいと思います。

第 40 回丹沢湖ハーフマラソンで
鍼マッサージコーナー開設

紅葉が鮮やかな丹沢湖の周回コースで第40回丹沢ハーフマラソンが11月25日開催されました。絶好のマラソン日和で、東海大学箱根出場選手多数の参加もあり大変盛り上がった大会でした。走行前のパイオネックスも2,000本を127名の選手に添付し、施術者は22名と少なめでしたが、はりマッサージ施術は126名でした。遠くは東京、川崎から参加いただき感謝、感謝です。猪鍋もふるまわれ、秋の空気をふんだんに感じ取れた大会でした。

終了後、2020年東京大会の募集を公表したこと、１月から募集が開始されまる旨を説明しました。大会要項を全鍼師会ホームページよりご覧になり、要件をクリアーできる方は是非ご応募いただければと思います。

第 13 回湘南国際マラソンケアブース報告

今年は、肌寒い気温でしたが、レースには絶好のコンディショニング日和の中、第13回湘南国際マラソンが２万人参加のもと大磯プリンスホテルスタート・ゴールで実施されました。ケアブースでの施術者は、神鍼会、東京東洋、東京都師会、茨木県師会、千葉県師会、埼玉県師会の先生を含めた45名でした。

円皮鍼施術185名、鍼マッサージ施術502名の選手の施術を行いました。ベッド15台で502名は過去最高で、施術者の先生の御苦労に加え、神奈川衛生学園専門学校の学生50名参加のもと、実に迅速な行動でこれだけ多くの選手の対応にあたることができました。

2020年は、大磯プリンスホテルがヨット競技の選手村になり、ホテル内のポリクリニックでの活動が決まりました。参加を希望する先生方の意識の高まりを感じた大会でした。

報告　朝日山　一男

川崎国際多摩川マラソン大会報告＆
多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎のお願い

去る平成30年 11月18日（日）川崎市等々力競技場にて、2018川崎国際多摩川マラソン大会が開催されスポーツ鍼灸マッサージを行わせて頂きました。施術者29名（内：他会応援14名）で128名に施術をさせて頂きました。

今回の大会より、小川眞悟会長へ川崎市より来賓としてご招待や競技場内の電光掲示板へ師会アピールやブースの案内を掲示して頂きました。革命的瞬間をご参加頂きました先生方と共に、歓声と拍手で迎えました。

これまで、川崎師会へ数えきれないほどの先生方からのご支援・ご尽力の賜物と心より御礼申し上げます。今後共、川崎師会へのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

早速ではございますが、平成31年３月17日（日）川崎市古市場競技場にて、「2108多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎」が行われます。是非、川崎師会への応援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

つきましては、ご参加下さいます先生方は、お手数をお掛け致しますが、

川崎師会　044-741－2345　又は　研修部長榎本（044-722－8261）

までご連絡を頂きたくお願い申し上げます。

報告　川崎師会　榎本　恭子

会場が決まりました

鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会学術講習会

「耳鳴り・難聴・めまいに対する鍼灸手技療法」
～頸部・顔面部からの刺激が内耳の循環に及ぼす影響～

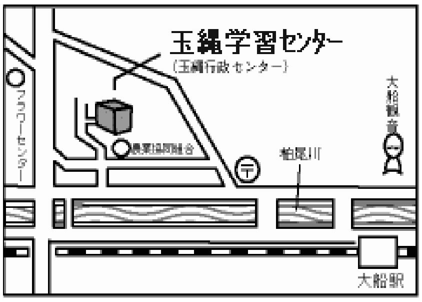
【講　　師】　山口　智 先生
（埼玉医科大学　東洋医学科）

【講演内容】

人口の10％から20％の人が耳鳴りを感じているといわれています。特に65歳以上の人においては30％近くの人において耳鳴りの経験があるとの報告もあります。また、世界各国で共通して、その国における人口の２割が難聴・聴覚障害を持っている人といわれています。

一方、めまいには多くの原因と症状がありますが、蝸牛症状として耳鳴りや難聴を訴える人も少なくありません。

今回は、埼玉医科大学東洋医学科より山口智先生をお招きして、頸部・顔面部からの刺激で内耳の循環にアプローチし、耳鳴り・難聴・めまいの改善を図る方法をご講義いただけることとなりました。臨床の場で訴えの多い症状です。皆様、ふるってご参加ください。



【開催日時】 平成31年３月３日（日）
13：30～16：30
（受付開始：13：00）

【会　　場】 玉縄学習センター　第２集会室
（鎌倉市岡本 2-16-3）
TEL：　0467-44-2219　＊JR大船駅西口から徒歩12分

【会　　費】

鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会会員	**無　料**
神奈川県鍼灸マッサージ師会会員	**1,000円**
その他の方	**2,000円**

【問合わせ】 林　秀卓　TEL：0467-45-2221　㈱アシスタンス内
Mail　ma_assistance@ace.ocn.ne.jp

災害支援活動報告
大きく変わった被災地支援「被災地でみたもの」

（公社）全日本鍼灸マッサージ師会
災害対策副委員長　朝日山　一　男
委員　榎　本　恭　子

「熊本地震」2016年（平成28年）4月14日発生

藤山仮設

７月14日・15日活動を行う。発生より２年が経ったが、2，931世帯7，230人が仮設住宅に住まわれている。

熊本県師会の先生方は、ご自身が被災されておりながら、未だに月に５～６回、中心市街より約一時間掛けて、仮設住宅へ支援を継続されている。

熊本地震から、業団のかかわり方が大きく変化した。まず、医療救護班登録をし、大会本部のＤＭＡＴドクターの案内で先遣隊が入り、現地調査を行った後、現地のコーディネートの行政担当者の指示で被災地に入れるようになった。しかも、全鍼師会、日鍼会、学会のボランティア希望者は、それぞれのＨＰの共通フォーマットから希望日を書き込み、業団のコーディネート役が指定の被災地に振り分けるという手順になった。

これで、いきなりボランティア希望者が被災地に入り、トラブルを起こすということは避けられた。何よりも行政担当者と業団のコーディネート役と１対１で対応ができ、多人数の対応をしなくてはいけない行政担当者の負担を最小限に留めることができた。これもＪＩＭＴＥＦ（国際医療技術財団）の研修会でＤＭＡＴの先生方と目に見える関係を築いた結果と言える。それ以後の災害は、このような手順で進んでいる。

ゼンシン体操

これから発生する災害への対応手順を災害ボランティア希望者は、この手順を学んでいただきたい。

今回、２年が経過した熊本地震の支援に訪れた。そこで見た経験を述べてみたい。ここでの活動内容は、ゼンシン体操・健康講和・はりきゅうマッサージ施術を行った。

引き籠りがちな方に出会った。その方は、「モグラちゃん」とみんなから呼ばれている。昼間は、１週間に一回程度しか外に出ない。買い物にも出ない。買い物は、娘さんや旦那さんが学校帰りや仕事帰りに買い物を済ませている。何故か気になり、仮設住宅のお部屋前についていくと、理由を話してくれた。家の前が、仮設全体の汚染処理場になっていること。入口から住んでいた自宅が見えること。しかも、ブルーシートで覆われており手付かずのままの住宅が見えた。それを見たくなくて、この様な現実を受け止め切れずに、まだ、復興を信じ待っている。

空いた仮設住宅があるのになぜ、行政は部屋を移してあげないのか。援助はないのか。憤りを感じたと同時に、本当の理由を話してくれたことが何より嬉しくもあり、私達の出来ること、行政への繋げる力・傾聴の大事さ・難しさを学び、コミュニケーションの大切さを教えて頂く事が出来た。

藤山仮設

また、お盆の時期だったが、仮設の敷地外にお墓が並んでいた。全部お揃いの墓石・全部お揃いのお花がお供えされているのを見て、凄く悲しくて、寂しくやり切れない思いだった。

お揃いのお墓

いまだ、材料不や職人さん不足で家が建たない、また家は建てられないが復興住宅の建設が遅れていることから先々夢が持てないと被災者の方は訴えておられた。また動かないから糖尿病になったとも言っておられた。

支援に行ったつもりだったが、帰りに自分たちで作ったカボチャを持って帰ってほしいと、かなりの数を持ってこられた。恐縮しながらも有り難く頂いて帰った。

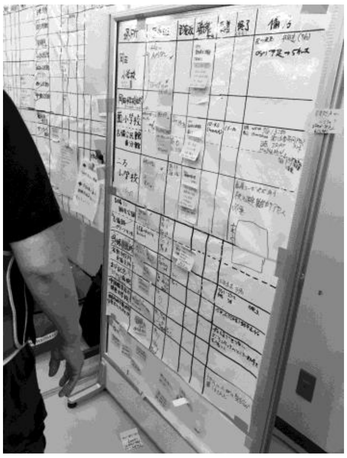
「平成30年7月豪雨災害」2018年(平成30年)6月28日から7月8日の豪雨

７月20日・21日活動を行う。

（１）倉敷、総社での活動

岡山県は災害協定を結んだ直後で、岡山県師会は県からの依頼で活動することになった。朝対策本部でミーティングの後３チームに分かれて活動を行った。真備町・倉敷市を中心に10施設で施術を行った。

まだ、２週間という時期なので、避難所の中は、物資で溢れていた。また、段ボール間仕切りジェイソンというユーモアある名前を掲げたボランティア団体が仕切りを作っていた。災害が続く中で、段ボールベッドや背の高い段ボールの壁が出来ていることに万が一じゃなくなっていることにショックを受けた。


対策本部の掲示板

フィリピンの女性が話しかけてきてくれた。足が痛い。コードが散乱している。携帯の充電器や扇風機等のコードが凄い。それを素足で踏み、体育館の寒さで足の痛さを感じていた。また、言葉の壁で、助けてと言えない。食事が合わない。体臭が気になる。家族と離れ離れになっているので、早く一緒になりたいと施術しながら話をした。ほかの方を診ているとまた、そばに来る。少し話を聴くと、運動療法を教えてほしいと一緒に運動すると涙しながら、喜んでくれた。子供のように傍を離れない。

また、高齢者の男性が大きな毛布をガムテープでぐるぐる巻きにしていた。何をしているのですか。と尋ねると、ここの物は使いたくないから家から持ってきた。腰が

余った物資の山、ダンボールベッドと散乱するコード

痛いから抱いている。でも、枕と高さが合わないから、巻き直したいけど、手に力が入らないから出来なくて、困っている。奥様の施術をしながら会話を聴き、ガムテープを外し、巻き直すお手伝いをすると色々と話してくれた。ベッドから降りて歩き出すとコツコツと音がする。やはり、素足で歩いるので、伸び切った爪の音がする。鳥が歩いる様だとみんなが笑う。見せて頂くと出血や巻き爪を確認できたので、担当の保健師へ連絡を入れ、診て頂くように連携を取った。

昼間、家の片付けから帰った方が、暑くて仕事にならない、半日がやっとだ。ボランティアがいるからやる気になるが、いなければ動く気にもならないとのことだった。

特設：デイサービス

避難者の方には弁当が出ていたが、揚げ物が多く、野菜が取れなく胸焼けがすると訴える避難者が多かった。栄養面での問題もうかがえた。

多職種連携や衛生管理、外国の方の食事の問題も聴く事が出来た。

崩れている現場や物資の必要性や環境の違い等の現実厳しさを突き付けられる感じが避難生活の中で感じた。

（２）広島坂町小屋浦での活動

22日先遣隊で情報を得た広島県師会の先生方と被害の大きい坂町に向かう。呉線は途中何個所もがけ崩れが発生しており、豪雨のすさまじさが感じられた。小屋浦に着くと小さな川の両側は土台をもぎ取られた家、冠水した家などに多く、暑くほこりが舞っている現場でボランティアの方が活動をされていた。

間仕切りジェイソン

ふれあいセンターや小学校体育館、そして集会場などで活動を行ったが、多くの家族が雑魚寝状態で、ここから仕事に向かわれたり、生活されていることを思うとつらさが伝わってきた。

次の場所に向かおうとしたら、大学の先生がこの先の避難所で、マッサージをしてほしいと訴えておられる方がおられるので是非行ってほしいとのことだった。広島師会の先生も困った様子だったが、集会場に向かった。現場での情報の共有の必要性を感じた。ここは20畳ない空間に、所狭しと布団などが積んであり、肩を並べるように７～８世帯位の方が生活されていた。マッサージしてもらえるんだと大変喜ばれた。ここでは、大分から応援に来ているというテレビ局の取材を受けた。

（３）愛媛県西予市野村活動

８月23日ここでも先遣隊で入った全鍼、日鍼の先生の情報を得て、活動を続けておられる愛媛県師会の先生と今治から避難所である西予市野村小学校に車で向かった。

この場所は、ダムの放流で村の家々が二階まで浸水し、避難生活をされている場所であった。

野村小学校体育館に着くとダンボールで仕切った空間で生活されていた。多くの方がマッサージ、はりを希望された。ダム放流の警報が解からないまま、二階まで水が上り、水が引いた後も臭いがひどく、すべての家具が使いものにならなく、家も崩さなければならない。３人家族でそれぞれ家を建てたがすべて壊さなければならない。なぜこうなったのか行政への不満も漏らしておられた。

しかし、この避難所は炊き出しも充実しており、野菜も取れるので助かるとのことだった。他のボランティアの方からも、他の避難所に比べ対応がよいとのことだった。

この日は、３人で対応したが、ボランティアをしてもらえる会員が少なく、対応に苦慮している様子がうかがえた。

「北海道胆振東部地震」2018 年(平成 30 年) 9 月 6 日

９月11日・12日活動を行う。５日後で、空港も一階のみが営業をしており、上の階は閉鎖していた。空港を後にすると町の中は、僅かな光のみだった。それ故に、今までに見たことがない満点の夜空を見る事が出来た。貸切のプラネタリウムのようで、坂本九さんの歌のままだと痛切に感じた。空を見上げれば、美しい夜空で、下を見れば、壊れた道路や家がある。現実がどんなであれ、空は変わらないことが命に刻まれている。

また、コンビニエンスストアの物がない、電気のない怖さを初めて知った。ホテルには、全国から駆け付けている救急車や支援車が止まっており、物々しい感じがした。

拠点には、自衛隊の方々のキャンプ地や様々の車や道具が並んでおり、日本の国力の凄さを知った。と同時にすれ違う車は、自衛隊の車か救急車・特殊車両ばかりで日本ではない不思議な感じがした。

何もないコンビニ…

自分が感じたままを、被災者の方々に話をすると、北海道良いところでしょ。と自慢をしてくれた。子供の多さに驚いた。子供の夜泣きが止まらない。全然寝てくれない。と家族で避難している方々が話しかけて来てくれて、小児鍼やお母さんと添い寝しながらの施術等行った。地震から笑うことがなかった。子供が騒ぐと叱っていた。でも、ここで子供が騒がしいことや笑って良いと思えて楽になった。妊婦の方は、地震前や最中に生まれなくて良かった。この子を抱えながら避難は出来ないと不安を語ってくれたので、医療体制が整っていることや保健師が在中していること等を話すと安心して出産ができる。と喜んでくれた。

救援物資の液体ミルクの成分が日本の安全基準に沿っていないので、全部回収するよう

ＤＭＡＴと一緒に行動

に災害対策本部で朝説明があった。ＤＭＡＴの連携で、夕方には、一つも開封せずに回収できるチーム力に感動した。

何よりＤＭＡＴ会議や対策会議にＪＩＭＴＥＦで知り合った先生の紹介で参加させて頂き、支援団体として急性期に活動できるように認めて頂き、活動できたことが最大の結果だと思う。今までは、後方支援や慢性支援だったが、急性期でも心身ともに支援ができることを証明ができた。

逃げる時や家の中で家具が倒れてきて、ケガをしていると思うから、診てほしい。震災のストレスで首が動かない。人助けをしてから腕が上がらない等の問題がたくさんあった。

部屋から笑い声が聞こえるので、何事かと多くの関係者が見に来ていた。その中でも、警察官と担当してくれた栃木のＤＭＡＴのリーダーの先生が、ほかのＤＭＡＴへ、ここで鍼灸マッサージの施術をしてくれている。こんなに楽しくしているは初めてだと案内をしてくれていた。

むかわ町担当者と朝のミーティング

更に、ＮＨＫを始め時事通信、北海道文化放送の特に時事通信の方は、むかわ町まで取材に来られ長時間私達と時間を共有された。

新宿中村屋よりレトルトカレーを600食頂き、むかわ町とＤＭＡＴの事務局へ。段ボールベッドや間仕切りを要らないと。地域性を感じた。

炊き出しを施術している部屋へ持ってきて、ママ友たちと楽しく食べているのも印象的だった。

被災している地域性や発災からの時期・時間の経過によって、心身の変化を経過観察する必要があると感じた。

そういう意味では、熊本県師会の継続的ケアは、急性期から慢性期、仮設から復興住宅や自宅への支援までが我々ができる支援だと考える。

一人でも多くの会員が現地に赴き、被災者の方と触れ合うことで、どのように向き合うことができるか、いずれ起こるであろう、関東での災害にどう行動すべきか、学ぶことができる。多くの会員は目の前に災害が起こっているにも関わらず、そのかかわり方がわからず静観する事態になっている。神奈川は災害協定の締結に向かって進んでいるが、果たしてどれだけの会員が協力頂けるか。経験のないことは実践に移すことはできない。これが現実だ。身近で災害が起こっているにもかかわらず、支援鍼灸マッサージ師が絶対的に不足している。みなさん現場に行きましょう。そして、現場に迷惑をかけない行動方法を学びましょう。それが現場から学んだことです。

福利厚生部より

同好会部員募集中！

現在、神奈鍼において認可された同好会は次の３会ですがそれぞれ部員募集を行います。

入部希望者は、同封の所定用紙に必要事項を記入して、各同好会または神奈鍼事務所にＦＡＸで申込みください。

福利厚生部　梅田　春樹

●ＡＭＧ神奈川【ゴルフ同好会神奈川】

全国の有資格者が集まるゴルフ好き仲間です。

目的　趣味のゴルフを通して全国の鍼灸マッサージ仲間と楽しめる時間を持つ

活動　毎年一回、埼玉県秩父カントリー倶楽部で行われます。バーベキューや宿泊そして翌日のプレーも希望により可能です。神奈鍼に今年度発足いたしました。第一回を７月に開催いたしました。

＊希望者は申込用紙を FAX で神奈鍼事務所（045-242-7791）まで

設立発起人　梅田　勲、田代広伸、荒川　隆、小川眞悟

●ボウリング同好会

ボウリングの人気が再来しており先日のアジア競技大会でも好成績を収めました。ご一緒にストレス解消いたしませんか？

目的　ボウリングにより会員の更なる親睦を深め楽しさを共有する

大会　年間数度の競技大会を開催

＊希望者は申込用紙を FAX で神奈鍼事務所（045-242-7791）まで

部長：工藤英二　副部長：倉田美彦　顧問：梅田春樹

●ＳＵＰ同好会

サップとは「Stand Up Paddle Boad」の略でハワイ発祥のマリンスポーツで老若男女を問わずどなたでも楽しめるとして近年話題になっております。あなたも一緒に水上散歩を経験しませんか？

定例会　４月～11 月のシーズン中は第３水曜日に葉山大浜海岸のショップ“キャップルー葉山”のご協力で開催いたします。

部長　梅田春樹　TEL・FAX 046-872-1134

設立発起人　梅田春樹、松野　徹、川口　誠、國友治久

災害募金にご協力有難うございました！

平成30年	6月10日(日)	神奈鍼総会	17，743円
	7月22日(日)	神奈鍼学術大会	14，810円
	8月　5日(日)	はりきゅうマッサージの日	6，337円
		合　計	**38，890円**

上記金額を全鍼師会災害復興支援金の口座に
送金させて頂きました。

総務部より

事務所年末年始休業のお知らせ

平成30年12月29日（土）より平成31年1月3日（木）まで

※新年１月４日より業務を開始致します。

今年も１年ありがとうございました。
来年もよろしくお願いいたします。

平成31年新年賀詞交歓会のご案内

平素は神奈鍼会務にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

平成31年賀詞交歓会を下記の通り昨年同様３団体共同で開催致します。ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、なにとぞ多くの会員の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。会報161号で既にご案内しましたが、締切を延長して再度のご案内をいたします。

記

日　時：平成31年１月20日（日）　18時～20時（17時30分受付開始）

場　所：ホテル　キャメロットジャパン　５Ｆ　ジュビリーⅡ
（下記地図をご覧ください）
神奈川県横浜市西区北幸 1-11-3　ＴＥＬ：045-312-2111

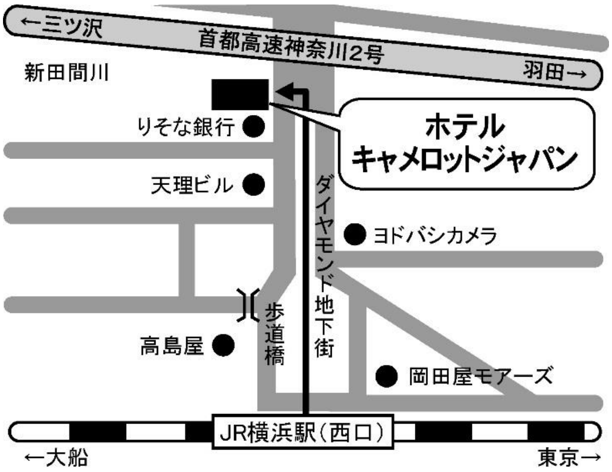
会　費：10，000円（付き添いも同額）を当日ご持参下さい
神奈鍼会員（付き添い）は**2，000円を補助**いたしますので、
当日受付にて**8，000円をお支払い下さい。**

申込み：①所属師会名　②参加者名　③携帯電話番号（無い場合は電話番号）
を添えて神奈鍼事務所まで**ファクス、郵送、もしくはメール**でお申し込み下さい。

FAX番号　045－242－7791
メールアドレス　kanasin@apricot.ocn.ne.jp

申込締切：**平成 31年 1 月 4 日（金）**

ホテルキャメロットジャパン

神奈川県横浜市西区北幸 1-11-3
ＴＥＬ：045-312-2111

横浜駅西口ダイヤモンド地下街
突き当たり南12番出口を上がってすぐ左
（横浜駅西口より徒歩５分）